

令和8年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

50年を超える歴史と伝統を継承する中で、自ら学び、主体的に判断し、行動できる人材を育成する学校をめざす。 1 規律を守り、思いやりと感謝の気持ちを忘れず、夢と志をもって常に挑戦し、計画性を持って努力を続けることのできる生徒の育成。 2 情熱をもって生徒を指導し、教職員自らが課題を発見し、主体的に解決を図ることができる教職員集団の形成。
--

2 中期的目標

1 確かな学力の育成 (1) 教科指導を充実させ、学力を向上させる。 ア 基礎的、基本的な知識及び技能を確実に定着させるとともに、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力を育む。 イ 「主体的・対話的で深い学び」の実現をめざして授業改善に取り組み、生徒を鍛え伸ばす授業を展開する。 ウ 1人1台端末やICT機器等を活用し、学習に向かう意識を向上させ、家庭学習時間を増加させる。 ※授業アンケート肯定的評価 R10:3.5【4段階】(R5:3.3,R6:3.3,R7:3.4) ※生徒アンケート「授業が楽しくわかりやすい」肯定的評価 R10:85%(R5:53%,R6:72%,R7:80%) (2) 進路指導を充実させ、チャレンジ精神をもって進学・就職に取り組んでいく姿勢を育成する。 ア 3年間を見通した進路指導計画を確立し、学力生活実態調査等を活用して、時機を捉えた進路指導に努める。 イ 進路選択に対する意欲を喚起するために、様々な機会を設定し、その内容の充実を図る。 ※生徒アンケート「将来の進路や生き方について考える機会がある」 R10:95%(R5:93%,R6:92%,R7:94%) ※希望する進路達成率 R10:95%以上を維持(R5:98%,R6:97%,R7:97%) (3) 令和10年度に向けてコース制の見直しを行う。 ※R10・新コース制スタート(R7:現コース制の課題整理)
2 豊かな人間性の涵養 (1) 特別活動や部活動、地域と連携した活動等を通して、自主性、協調性を養い、自分の価値を感じ、自己承認できる力を高める。 ア 学校行事や生徒会活動等において主体的な取り組み、集団の中で人と調和しながら活動できる能力を育成する。 イ 地域と連携した活動や部活動等に積極的に取り組み、目標達成に向けての課題を発見し、主体的に取り組む姿勢を醸成する。 ※生徒アンケート「部活動は活発だと思う」肯定的評価 R10:90%以上を維持(R5:84%,R6:90%,R7:89%) (2) 基本的生活習慣を定着させるとともに、規範意識を醸成する。 ア ルールやマナーを守り、登下校時や校内でのあいさつを元気よく行い、思いやりを持って行動できるよう意識の向上を図る。 イ 一貫性があり、生徒を育てる生徒指導により、基本的生活習慣の確立と規範意識の醸成に努める。 ※遅刻者数 R10:10人/日 未満を維持(R5:7.1人,R6:6.7人,R7:5.4人) (3) 人権教育を総合的に行うことにより、個性を理解し、お互いを尊重し、安全で安心な学校生活を送ることができるようにする。 ※生徒アンケート「命の大切さについて学ぶ機会がある」肯定率 R10:90%以上維持(R5:77%,R6:87%,R7:94%) (4) 国際交流の充実を図り、多様性を尊重する教育を推進する。 ※生徒アンケート「国際交流等により多様性を学ぶ機会がある」肯定率 R10:65%(新規)
3 生徒支援の充実 (1) 校内の教育相談体制を充実させ、支援の必要な生徒、課題を抱える生徒を適切に支援する。 ア 教職員間の速やかな情報共有・連携した対応を確実なものとする。 ※教職員アンケート「日常的に話し合っている」肯定率 R10・85%以上(R5:85%,R6:76%,R7:77%) イ 生徒支援委員会、教育相談室等の機能を高め、不登校の防止・対応に努める。 ※生徒アンケート「いじめなど困っていることがあれば真剣に対応してくれる」 肯定率 R10:90%以上を維持(R5:78%,R6:90%,R7:92%) (2) キャリア教育の推進(将来の進学、就職を見据えた進路アドバイスの充実) ア 夢と志を持って将来の自分の人生を切り開いていく力を育成する。 イ 総合的な探究の時間を活用したキャリア教育の強化 (3) 探究的な見方、考え方を身につけ、横断的、総合的な学習を行うことを通して自己の在り方、生き方を考えさせる。 ※生徒アンケート「将来の進路や生き方について考える機会がある」肯定率 R10:95%(R5:91%,R6:92%,R7:94%) (4) 高大連携により、大学教育に触れる機会をつくり、研究や学問が社会の中でいかに活用されているかを理解し、学びに向かう力を育成する。 ※生徒アンケート「進路選択に関して学ぶ機会がある」肯定率 R10:95%(R5:84%,R6:87%,R7:93%) (5) 生徒が安心安全で積極的に通学できる環境を整える。
4 学校力の向上 (1) 教職員の課題発見、解決能力の向上 ア OJTを通した教職員の育成を通して、自ら課題に取り組み、解決のため努力する教職員集団をめざす。 イ 実践的な教職員研修を行い、授業力、生徒指導力、教育相談力等の向上を図る。 ※生徒アンケート「教材や教え方を工夫している」 R10:90%以上を維持(R5:90%,R6:95%,R7:95%) (2) 働き方改革 ア 業務の統合や効率化を図り、教材研究の時間及び生徒と向き合う時間の確保に努める。 ※時間外在校等時間年間平均 R10:360時間以内に(R6:441時間,R7:412時間) イ 分掌、各種委員会等の組織及び個々の業務内容の見直しを図り、組織で取り組む力の向上をめざす。 ※ストレスチェック職場評価改善 総合リスク R10:90を維持(R5:117,R6:89,R7:93) (3) 広報活動の充実 学習支援クラウドサービス、HP、学校説明会等により、生徒、保護者、中学生等に対して学校情報を積極的に伝える。 ※学校説明会肯定的評価 R10:95%以上を維持(R5:99%,R6:98%,R7:99%)

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和 年 月実施分〕	学校運営協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R 7 年度値]	自己評価
1 確かな学力の育成	(1) 教科指導の充実による学力の向上 ア・基礎的、基本的な知識及び技能を確実に定着 イ 思考力、判断力、表現力の向上 「主体的・対話的で深い学び」の実現	(1) アイ ・1人1台端末やICT機器等を効果的に活用し、発問や授業形態の工夫など授業改善に取り組む。 ・アクティブラーニングの視点からの実践を通して、教科で協働的に授業改善を図る。 ・これまでの研修の経験を踏まえ、全体での研修の充実を図るとともに、公開授業週間を設け、相互に授業見学することにより授業力の向上をめざす。 ・ペアワーク、グループ学習などの学習形態や、ICTを活用したリモートによる地域や大学との連携が進むよう、環境整備を進める。	(1) アイ ・授業アンケート肯定的評価 【生徒意識1,2】 3.30以上を維持 [3.34] ・生徒アンケート「授業が楽しくわかりやすい」肯定率 82%以上 [80%] ・生徒アンケート「1人1台端末の効果的な活用」肯定率 95%以上 [94%] ・教員アンケート「授業において、指導方法の工夫・改善に努めている」肯定率 95%以上を維持 [97%]	
	ウ 学習に向かう意識の向上	ウ・学習支援クラウドサービスによる週末 Web テスト、自習室、図書室の活用等を通して、学校全体に学習する雰囲気を生み出し、家庭学習の定着につなげる。	ウ・授業アンケート肯定的評価 【生徒取組1,2】 3.30以上を維持 [3.33]	
	(2) 進路指導の充実 ア 3年間を見通した進路指導計画	(2) ア・3年間を見通した進路指導計画に基づき、学力生活実態調査等を活用して、分析に基づいた進路指導を行う。 ・学力生活実態調査のリトライ指導を徹底する。 ・1・2年生は長期休暇中に実力養成講習、3年生は早朝、放課後、長期休暇中等に進路講習を実施する。	(2) ア・希望進路達成率 95%以上を維持 [97%] ・開講講座数 18 をめざす [12 講座]	
	イ 進路選択に対する意欲の喚起	イ・社会人（卒業生等）講演、外部模試、進路ガイダンス等によって、自己の進路実現に向けて取り組む姿勢を養う。 ・各種資格テスト等の受験、各種コンテストへの参加を推進する。	イ・生徒アンケート「将来の進路や生き方について考える機会がある」肯定的評価 95% [94%] ・外部模試受験者延べ数 500 人以上を維持 [575 人]	
2 豊かな人間性の涵養	(3) 令和 10 年度に向けてコース制の見直しを行う	(3) 令和 7 年度に整理した課題を精査し、令和 8 年度上期に、新コース制・選択教科の骨子を検討し、令和 8 年度下期には、新コース制・選択教科の詳細を検討する。	(3) 新コース制の詳細確定 [コース制の課題の整理]	
	(1) 特別活動や部活動等での自主性、協調性の育成	(1) ・生徒会活動、校外学習、修学旅行などの行事を活用し、生徒の豊かな感性を育み、主体的に取り組む姿勢を育て、協調性、人間性を磨く。 ・生徒会活動が自主的な形となるよう意識の向上をめざし、生徒全体に広がるように促す。 ・体験入部の実施をはじめ、指導の充実や活動 PR により、部活動の活性化を図る。 ・交野市との包括連携協定や、Safety Bicycle 推進校の指定、防犯モデル校の指定を活かし、地域と連携した活動の充実を図る。	(1) ・行事に対する肯定的評価 90%以上維持[94%] ・学校の特色に対する肯定的評価 70%以上[69%] ・部活動加入 70%以上を維持[72.1%] ・地域と連携した活動 年間 10 回以上を維持 [12 回]	
	(2) 基本的生活習慣と規範意識の醸成	(2) ・教員が毎朝校門で生徒を迎え、挨拶・服装・遅刻指導を実施する。また、丁寧な頭髪指導等を行い、落ち着いた学習環境の維持に努める。 ・生活指導の意味を生徒、保護者に適切に伝えて、納得感のある生徒指導を行う。 ・清掃活動を学校全体で取り組み、美化意識の向上に努める。	(2) ・遅刻者数 現状を維持 [5.4 人/日] ・保護者アンケート 「生徒指導の方針に共感できる」肯定的評価 80%以上 [76%] ・生徒アンケート 「学校は清掃活動が行き届いていて清潔である」肯定的評価 75%以上 [72%]	
	(3) 人権教育の充実	(3) ・障がい者の人権や同和問題、拉致問題などについて、3年間を見通した人権教育を計画的に行なう。また、命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会の向上に努めるため、外部人材を積極的に活用し、多面的なアプローチにより人権について考える機会を充実する。	(3) ・生徒アンケート 「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある。」肯定的評価 90%以上維持 [94%]	
	(4) 多様性を尊重する教育の推進	(4) ・姉妹校との交流や留学生、外国人訪問者等の受け入れにより多文化交流を充実する。	(4) ・生徒アンケート 「国際交流等により多様性を学ぶ機会がある」肯定的評価 65%以上 [新規]	

府立交野高等学校

3 生徒支援の充実	(1) 教育相談体制の充実による適切な支援 (2) キャリア教育の推進（将来を見据えた進路・職業アドバイスの充実） (3) 探究活動の充実 (4) 高大連携の発展 (5) 生徒が安心安全で積極的に通学できる環境を整える	(1) ・支援の必要な生徒に対して、学年主任、担任、養護教諭を中心として教職員が連携し、速やかに対応する。 ・生徒支援委員会によって情報を共有し、個々の生徒に対する適切な支援方法を学校全体で組織的に考えていく。 ・スクールカウンセラーを十分に活用し、生徒が相談しやすい良好な関係づくりを模索するとともに、教育相談力の向上に努める。また、教育相談に関する情報の周知を図るため広報活動を充実させる。 ・生徒が安心安全に通学できるよう、地域との連携体制を充実させるとともに必要な対策を講じる。 (2) ・一人ひとりの社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てる。 ・社会人(卒業生等)講演等を通して生徒自身の職業適性を発見させる。 ・分野別説明会等の充実を図り、将来の進路や生き方について考えさせる。 (3) 交野市との包括連携協定を活かした地域や企業と連携した探究活動を継続するとともに、3年間系統立てた探究活動を構築することで、その充実を図り、思考力、実践力を育成する。 (4) 高大連携により、大学教育に触れる機会をつくり、学びに向かう力を育成する。 (5) ・生徒が安心安全に通学できるよう、地域との連携体制を充実させるとともに必要な対策を講じる。 ・防犯意識の醸成に向けて交野警察署と連携した取り組みを行うとともに、学校の防犯体制の充実を図る。 ・食堂がない中での喫食環境の充実を図る。	(1) ・自己診断「日常的に話し合っている」肯定的評価 80% [77%] ・生徒アンケート「いじめなど生徒が困っていることがあれば、真剣に対応してくれる」肯定的評価 95%以上 [92%] ・教員の「SC の活用状況」肯定的評価 80%以上を維持 [73%] (2) ・生徒アンケート「将来の進路や生き方について考える機会がある」肯定的評価 95%以上 [94%] (3) これまでの蓄積を生かしつつ、新たなプログラムを導入した探究活動の実現 [新規] (4) 生徒アンケート「進路選択に関して学ぶ機会がある」肯定的評価 95%以上 [93%] (5) ・交野警察署と連携した取り組み 3回以上を維持 [3回] ・自立支援団体のパン販売の充実 販売頻度増 [週1回]	
4 学校力の向上	(1) 教職員の力量の向上 (2) 働き方改革 (3) 広報活動の充実	(1) ・授業、部活、HR、日常業務等について、経験年数の少ない教員を中心とした OJT 勉強会を実施する。 ・教職員研修や研修報告会、模試結果活用会議等を行い、生徒指導力、教育相談力、進路指導力等の向上を図る。 ・分掌や教科等の各組織における教育活動の振り返りを行い、次年度の活動の充実を図る。 (2) ・業務の統合や効率化とともに、業務の平準化を図り、教材研究の時間および生徒と向き合う時間の確保と時間外勤務時間の縮減に努める。 ・部活動方針を遵守し、活動時間、指導時間等の見直しを行い、教職員の長時間勤務を縮減する。 (3) ・学習支援クラウドサービス、ホームページ、学年メルマガ等により、学校の情報を保護者や地域に積極的に発信する。 ・地域のイベントに積極的に参加し、部活動や教育内容の周知を行う。 ・学校説明会、中学校訪問の充実を図る。	(1) ・OJT 勉強会 10回 [10回] ・教職員研修 5回 [5回] (回数の維持と質の向上) (2) ・年間の時間外在校等時間が 720 時間を超える教育職員をゼロにする [5人] ・ストレスチェックの職場評価の仕事負担低下と職場支援アップによる総合健康リスク 92 [93] (3) ・学習支援クラウドサービス発信 2000 回以上を維持 [3500回] ・地域と連携した取り組み 10 回以上を維持 [12回] ・学校説明会参加者 延べ 650 人以上を維持 [675人]	